

急ぎ足の回想あれこれ

清長益栄

今春の第24回OB総会の際、大谷会長より「本会報に寄稿しないか」との声が掛り、その際には間髪を容れず、左小指を立て、「これの話でもよければ・・・」と言った所、OKとの返事。私の本心は、NO!と返って来るものとばかりに、立てた小指を隠さざるを得なかった。原稿の期限は8月中との事であり、何とかなるものと仕事に熱中?していたが、小指の話をどうまとめるか悩んでいた。

そのうち、NHKのテレビドラマ「ゲゲゲの女房」が大ヒットしている事を知り、その発祥地は小生の故郷であり、何十年振りに故郷のことを思い出しながらテレビを観ていた。

我が故郷、島根県安来市大塚町（旧島根県能義郡大塚村）は、なかなか発展的な面が多く、子供の頃から四季を通じ、人と物によって文化の交流やスポーツの盛んな村で、私が中学一年生の時には昭和の大合併の前哨戦として、学校統合が行われ、私の中学校も組合立として統合させられ、それ迄の大塚村立大塚中学校は安来町・大塚村組合立安来第二中学校となった。生徒数が突然4倍となり、各面でメリットとデメリットとが表れたものである。その後、町村合併により安来市が誕生し、母校も安来市第二中学となった。テレビの中で時々出てくる伯太川は、夏は格好の水泳プールであった。

ゲゲゲの女房のテレビを観て故郷を思い出し、続いてこれ迄のわが歩みが回想されて、今回の国土OB会への原稿は日本国土開発での思い出と決め、小指の話はやめた。

私は昭和33年に日本国土開発に入社した。42年間在籍したうちの当初1/3の事について記す事に方向変換する。

昭和33年4月1日の入社式は日本橋白木屋百貨店の近くの小さな二階建て社屋の中の小部屋で二十人足らずの入社式が行われた。その時、新入生の土木屋は、谷野憲司さん、森山悦行さんと小生のたった三人であったことを懐かしく思い出す。

私は、見かけによらず“整理屋”の性格で、入社以来の社報、社内通信、業務連絡報、国土グラフ、すこやかファミリー、安全環境ニュース、基金だより等を大事に保存している。

小生の入社当時は、全社員に配布される通達文書は、別添の「日本国土開発社報」のみであった。私が初めて手にした昭和33年6月30日発行第24号の人事異動欄があり、小生の名前が新入社員として初めて載っていたことを覚えている。

当時の社報の内容は、素っ気無い内容で得意先からの感謝状、人事異動、社内訓辞等が主な記事である。昭和36年4月20日発行第50号の会社創立10周年記念号には記念式典や王子モータープールの盛大な工場披露招待等が記載されている。

社章の変遷について過去の社報を辿ると、小生が入社した昭和33年の社章は、昭和36年に変更され、更に平成3年（1991）4月に現在の社章に変更されている。

昭和47年の業法改正を記載した社報では、下請け制度の見直しに迫られ、永年呼びなれて来た「オヤジや」「〇〇班」の懐かしい言葉が消える事が掲載されている。永年保存して来た国土からの古びた通達文書を改めて見直す事により、多くの思い出が蘇り、当時の先輩、同輩、後輩諸氏と顔が浮かび、諸々の懐かしい思い出も目前に迫って来て、黙想の連続であった。